

授業科目名	趣味学
-------	-----

授業の概要	<p>本授業は、＜趣味＞が、個人、環境、社会、国、文化の各レベルにおいてどのような意味や効果を持ちうるのか、について、理論と実践事例の両面から学ぶ。理論面では、Stebbinsの「シリアスレジャー」というコンセプトを取り上げ、個人レベルから文化レベルまでの＜趣味＞の意味・効果について理論的に学ぶ。また実践事例面では、数名の講義者に＜趣味人＞としての登壇いただき、＜趣味＞実践（R8年度は、アニメ、楽器演奏、運動、読書、映画音楽鑑賞、カナディアンカヌー、創作などの＜趣味＞実践の事例を予定している。）をとおしたレジャーキャリアの形成や自己実現の達成など、個人にとっての＜趣味＞の効果や意義について語っていただく。</p>
授業の目的	<p>本授業は、不確実性の時代を豊かに生き抜くために不可欠な、余暇活動、とりわけ＜趣味＞活動の役割について、＜趣味＞に関連する幾つかの理論および趣味活動の実践事例をとおして包括的に学ぶと同時に、現代人にとっての＜趣味＞の意義を発見することを目的としている。具体的には、理論面においては、カナダの余暇社会学者ロバート・ステビンズが提唱した「シリアス・レジャー（「真剣なレジャー）」というコンセプトを取り上げ、＜趣味＞の3つ効用、すなわち1）「＜自分らしさ＞の獲得」、2）「専門知識・スキル・経験の習得・蓄積による知識基盤の構築」、および3）「ワーク・ライフ・バランスとウェルビーイング（幸福感）の醸成」について理解を深める。また、実践事例面においては、複数の科目担当教員による「オムニバス形式」の講義をとおして、＜趣味＞に対する多様なアプローチのあり方を知ると同時に、真剣かつ真面目に取り組む＜趣味＞の活動が、＜趣味＞の3つの効用に繋がっていくプロセスを確認にする。本授業の最終目標は、履修生一人ひとりが、＜趣味＞に生きることの意義を把握し、今後の自分の人生をより楽しく、豊かに生き抜くための気づきやヒントを獲得することである。</p>
授業の到達目標	<p>本授業では、以下の各項目を到達目標として設定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「シリアス・レジャー」というコンセプトを理解した上で、＜趣味＞の役割と効果について理論的に説明できる。（第1回） 2. ＜趣味＞活動が「＜自分らしさ＞の獲得」に繋がっていることを理解した上で、＜趣味＞の実践体験を紹介しながら、自分自身について肯定的に語ることができる。（第2回～第5回） 3. ＜趣味＞活動が「ワーク・ライフ・バランスとウェルビーイング（幸福感）の醸成」に繋がっていることを理解した上で、趣味（余暇）と仕事（労働）の共通点・相違点をそれぞれ説明することができる。また、＜趣味＞が人生に与える影響について説明することができる。（第6回～第10回） 4. ＜趣味＞活動が「専門知識・スキル・経験の習得・蓄積による知識基盤の構築」に繋がっていることを理解した上で、他者の＜趣味＞の世界のなかで、専門知識や体験の相互コミュニケーションができる。（第11回～第15回） 5. 全15回の講義内容を振り返り、＜趣味＞に生きることの意義に気づき、将来への予測が極めて困難な現代のなかで人生をより楽しく、豊かに生き抜くためのアイデアや自分の考えを、＜趣味＞という観点から述べるができる。
卒業認定・学位授与の方針との関連性	<p>DP1：知識・理解、DP3：関心・意欲に該当する。 DP2：思考・判断に一部該当する。</p>
授業の計画と内容	<p>※本授業はオンライン授業（オンデマンドによる動画配信＋資料配信）で実施する。</p> <p>授業の計画と各授業の内容は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 授業ガイダンス（趣味とは何か、授業の進め方、教員紹介、受講生の趣味の調査等）（那珂） ・第2回 趣味とシリアス・レジャー、趣味の効用～理論編（那珂） ・第3回 趣味を語ることは、「私」を語ること①「映画音楽の鑑賞」（那珂） ・第4回 趣味を語ることは、「私」を語ること②「推しバンドのライブハウス通い」（那珂） ・第5回 趣味を語ることは、「私」を語ること③「ランニング、カナディアン・カヌー」（那珂） ・第6回 趣味とは何か、趣味と仕事の違いとは何か（山根） ・第7回 趣味から得たもの、気づき、日常生活や仕事への波及～読書編（自然、社会、人間、あらゆるジャンルを通して）（山根） ・第8回 趣味から得たもの、気づき、日常生活や仕事への波及～楽器演奏編（ロックからクラシック、ジャズまで）（山根） ・第9回 趣味から得たもの、気づき、日常生活や仕事への波及～運動編（ダイエット、筋トレ、陸上競技）（山根） ・第10回 まとめ～趣味をもつとは、趣味が人生におよぼすこと（山根） ・第11回 80年代アニメ論①「なぜ80年代アニメなのか」（出口） ・第12回 80年代アニメ論②「80年代アニメ前史」（出口） ・第13回 80年代アニメ論③「アニメ制作者間の関係性」（出口） ・第14回 80年代アニメ論④「80年代アニメ文化」（出口） ・第15回 80年代アニメ論⑤「80年代アニメの影響」（出口） <p>定期試験（期末レポート）</p> <p>※3名の担当教員がオムニバス形式で全15回を分担講義する。ただし、担当教員の担当回の順番に変更が生じる場合もある。 ※参考書・参考資料は適宜紹介する。</p>

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
「趣味に生きる」の文化論：シリアスレジャーから考える	宮入恭平, 杉山昂平（編集）	ナカニシヤ出版	9784779514616	出版年:2021 金額(参考):2640

参考書

成績評価の方法	<p>各授業で提示される提出物（要約・感想、小レポート、課題レポート）で評価100%（担当教員毎、および期末レポートの評価比率は25%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・那珂担当分（第1回・第2回～第5回）：毎回授業の感想・質問（10%）、レポート課題（15%） 合計25% ・出口担当分（第6回～第10回）：毎回授業の感想・質問（10%）、レポート課題（15%） 合計25% ・山根担当分（第11回～第15回）：毎回授業の感想・質問（10%）、レポート課題（15%） 合計25% ・期末レポートで評価 25%
成績評価の基準	授業の到達目標への達成度を評価基準とする。
フィードバックの方法	提出物（要約・感想、小レポート、課題レポート）については授業期間中または授業終了後に適宜返却し、講評等は授業またはポータル配信を通じて行う。
授業時間外学修	<p>本授業における授業時間外学修（合計60時間）の内容は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本授業の教科書の精読（予習1時間として×15回＝15時間） 2. 各回で取り上げる配布資料の精読（復習1時間として×15回＝15時間） 3. 各回で提示される課題への取り組み（復習1時間として×15回＝15時間） 4. 担当教員ごとの課題（3時間×3＝9時間） 5. 最終課題（6時間）
実務経験のある教員の授業内容	
その他	本授業は3名の担当教員がオムニバス形式で全15回を分担開講するが、担当教員の担当回の順番に変更が生じる場合がある。その場合、履修生には授業またはUNIPAにて事前に通知する。